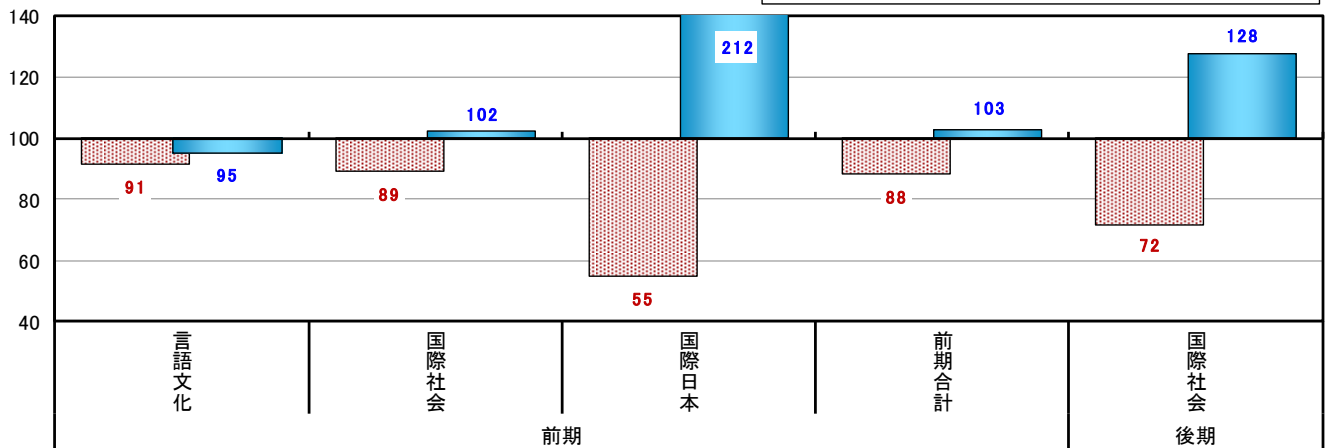


東京外国語大：前期はやや増加、個別の英語スピーキング試験実施の影響なし 前期：+38人 後期：+289人

※前年度の志願者数を100とする指数

■2021年度/2020年度 ■2022年度/2021年度



主な入試変更点 入学検定料：全学部<前>…17,000円→19,750円 ※英語スピーキング試験実施のため
個別試験：言語文化<前>、国際社会<前>…英語スピーキングテスト(BCT-S)を新規実施

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、6年連続減少の反動で327人(113)の増加。日程別では、前期は38人(103)のやや増加で、募集人員が579人となった2019年度以降では初の増加。前期合計の志願倍率は3年連続で3倍を下回ったが、2.57倍→2.64倍とわずかにアップ。入学検定料の値上げや言語文化、国際社会への英語スピーキング試験新規実施の影響は見られなかった。国際社会のみ募集の後期は、前年度大幅減少の反動で289人(128)の大幅増加で、募集人員が56人となった2019年度以降では初の増加。志願倍率は18.6倍→23.7倍にアップし、2年ぶりに20倍を上回った。

<前期日程>

- 言語文化(95)はやや減少で、募集人員が290人となった2019年度以降では3年連続減少。志願倍率も2.8倍→2.7倍にダウン。専攻言語別では、15募集単位中10募集単位が減少。特に、(タイ語・ラオス語・ベトナム語・カンボジア語・ビルマ語)(59)、(ウルドゥー語・ヒンディー語・ベンガル語)(68)、(朝鮮語)(70)、(中国語)(75)、(ドイツ語)(78)、(フランス語)(83)、(イタリア語)(83)は大幅減少。一方で、(インドネシア語・マレーシア語・フィリピン語)(183)、(ポルトガル語)(163)は激増、(スペイン語)(146)、(ポーランド語・チェコ語)(117)は大幅増加。
- 国際社会(102)は微増。13募集単位中7募集単位で減少。特に、(オセアニア)(63)、(東南アジア第2)(68)、(アフリカ)(78)、(ロシア)(78)、東アジア(82)は大幅減少。一方で、(イベリア/ラテンアメリカ)(181)は激増、(中央アジア)(154)、(中央ヨーロッパ)(139)、(中東)(121)は大幅増加。
- 国際日本(212)は新設4年目だが初の増加で、前年度半減近かった反動で倍増以上。志願倍率も1.7倍→3.5倍にアップ。